

2025年9月30日(木)~11月9日(日)

東京国立博物館 本館特別1・2室

Thematic Exhibition

Demon Slayers of the Heian Period The Tale of Demon King Shuten Dōji

平安時代の武士、源頼光と配下の四天王たちが、酒呑童子しゅてんどうじという鬼を退治する物語は、多くの美術作品に取り上げられてきました。きっかけは室町時代後期、狩野元信かのうもとのぶが描いた絵巻です。以後、狩野派はもちろん、多くの絵師たちがこの物語を描いてきました。この特集は、多くの人びとに愛好された「酒呑童子のものがたり」を描く作品を紹介するものです。

本特集では、扇面にこの物語を描く大変珍しい作例である「酒呑童子図扇面」全36面を一挙公開します。また、狩野孝信筆と伝わる三巻の絵巻から、狩野派にとっての酒呑童子絵を考えます。さらに、この物語で活躍する武士や鬼たちを題材にしたスピノフ作品などから、酒呑童子絵を深掘りしていきます。

酒呑童子絵には、残酷で、血なまぐさい場面も多く描かれていますが、なぜこの物語絵は広く、長らく愛されてきたのでしょうか。鬼退治に向かう人間側の論理だけでなく、討伐される酒呑童子の言い分にも耳を傾けながら、その秘密を皆さんと一緒に探してみたいと思います。

A group of brave samurai led by Minamoto no Raikō ventured deep into the mountains to slay the demon king Shuten Dōji. Set in the Heian period (794–1192), this story has captivated the imaginations of many artists since it was first illustrated by the painter Kanō Motonobu (1477–1559) in an illustrated scroll late in the Muromachi period (1392–1573). After which, artists from Motonobu's Kanō school, as well as many other artists, began depicting the story in their works. The present thematic exhibition displays works from the Muromachi period onwards related to this legendary tale.

※本特集は、前期(9/30~10/19)、後期(10/21~11/9)で展示替え、場面替えを行ないます

特集

平安武士の 鬼退治

酒呑童子のものがたり



扇に描かれた鬼退治

酒呑童子絵の多くは絵巻という形で絵画化されることが多いなか、この物語を扇面に描いた珍しい作例が伝わります。主要場面を三十六面の扇紙に描く、もとは屏風びやうぶに貼られていた作品です。多くの酒呑童子絵巻を手掛けた狩野派の先行作例に学びながらも、場面の選択や画面の細部には異なるところが存在します。また、何人かの絵師たちが分担して描いたようで、三十六面の中にも表現の違いが見いだせます。酒呑童子絵愛好の広がりを示す作品です。



11 酒呑童子は寢所に下がり、鬼たちにも毒酒を飲ませる。



6 酒呑童子にさらわれた女から、鬼たちの様子を教えてください。



1 安倍晴明の占いにより、近年多発する神隠しが酒呑童子の仕業であることが判明する。



12 酔いつぶれた酒呑童子は本来の鬼の姿に戻っていた。



7 酒呑童子の館に到着すると、鬼たちが襲い掛かろうとする。



2 源頼光、酒呑童子討伐の命令を受ける。



13 酒呑童子の首を斬り落とす頼光。首は毒気を吐いて頼光の兜に噛みつくが、帽子兜のおかげで助かる。



8 館の主、酒呑童子が登場する。



3 酒呑童子討伐の祈願のため、八幡、住吉、熊野に参詣する(画面は住吉社)。



14 酒呑童子配下の鬼たちと戦う頼光たち。



9 毒酒を飲ませると、酔った酒呑童子が身の上話を始めた。



4 酒呑童子の館に向かう途中、八幡、住吉、熊野の神々の化身に会う。



15 酒呑童子たちを討伐し、都に凱旋する頼光たち。



10 頼光らを挑発する鬼の舞に対し、坂田金時が負けじと舞を披露する。



5 神々は酒呑童子を倒すための帽子兜と毒酒を与える。

コラム 1

酒呑童子の角

酒呑童子ははじめ「童子」の姿で登場しますが、その後、本来の鬼の姿を現します。それは毒酒を飲まされて酔いが回り、神通力が失われたためです。この扇面では、鬼の姿となった酒呑童子の頭に二つの角があります。ただ、元信本、そして探幽本には角がなく、孝信本では二本の角が見えます。鬼といえは角のある姿が一般的と思われがちですが、古くは、鬼は必ずしも角が生えている訳ではありませんでした。当時の多様な鬼のイメージが酒呑童子の姿にも反映されています。



豪華絢爛

鬼退治のものがたり

「酒吞童子絵巻（孝信本）」は、室町時代後期に狩野元信が描いた三巻本（東京・サントリイ美術館所蔵）にもとづいて描かれたものです。元信本の大枠を引き継ぎながらも、人物の配置など若干のアレンジを加えています。この孝信本は、元信本に次いで古い酒吞童子絵巻の一つです。孝信は安土桃山から江戸時代初期を代表する絵師で、元信のひ孫にあたります。孝信は宮廷関係の絵画制作にも携わり、狩野派が得意とする中国主題のみならず、幅広いテーマの絵を描いています。



コラム 3

狩野派と酒吞童子絵巻

狩野元信が酒吞童子絵巻を描いて以降、狩野派にとってこの絵巻は「お家芸」とも呼べる画題と認識されていたようです。孝信、そしてその子の探幽をはじめ、多くの狩野派の絵師たちがこの主題に取り組みました。ただ、それぞれ画面には若干の違いがあり、個性の違いを示すのが腕の見せ所だったのでしょう。例えば酒吞童子の寝所の襖や「四季の庭」の表現などにその違いが表われています。

巻上 鬼退治に 出発

一条天皇の頃、都では人が突然いなくなるという事件が多数発生します。安倍晴明が占ったところ、酒吞童子という鬼の仕業であることがわかり、源頼光に鬼退治の命令が下りました。頼光は配下の四天王（渡辺綱、坂田金時、碓井貞光、土部季武）とともに八幡、住吉、熊野の神々に祈りを捧げ、さらに藤原保昌を誘って鬼退治に向かいます。旅の途中、頼光らは三神の化身に会い、鬼を倒すための毒酒、帽子兜を授かり、険しい道を超え、酒吞童子の館に向かいます。



山伏姿となって酒吞童子退治の準備を進める頼光たち。右手の人物が頼光。そこから反時計回りに綱、金時、貞光、季武、保昌。

巻中

巻中 鬼の館に 潜入

館にたどり着いた頼光らの前に、酒吞童子が姿を現しました。酒吞童子は人の血で作った酒をすすめますが、頼光たちは平然と飲み干します。頼光らはお返しにと酒（毒酒）を酒吞童子に飲ませると、さすがの酒吞童子も酔いが回り、身の上話を始めました。さらに鬼の一人が舞を舞いながら頼光たちをはずし立て、対して坂田金時も鬼たちを挑発する歌舞を披露します。その後、酒吞童子は寝所へ下がったので、頼光らは配下の鬼たちにも毒酒を飲ませ、酔い



酒吞童子と対面し酒宴が始まる。酔った酒吞童子は、弘法大師に悪行とがめられ、住まいを追われた過去を語る。

巻下

巻下 鬼の首をとる

酒吞童子の寝所は鉄の門で閉ざされていますが、八幡、住吉、熊野の三神が押し開けると、そこには酔って鬼の姿に戻った酒吞童子が寝ています。頼光らは囚われていた女房たちを促し、三神から与えられた縄で酒吞童子の手足を縛り、斬りかかります。ようやく首を斬り落としたところ、酒吞童子の首は毒を吐いて頼光に噛みつきましたが、帽子兜のおかげで助かります。その後、配下の鬼たちを討ち果たし、二人の鬼を生け捕りにし、酒吞童子の首を持って都に凱旋しました。



頼光らは山中で3人の男（八幡、住吉、熊野の神々の化身）に出会う。画面左手の険しい山に酒吞童子が住むという。



頼光が旅の目的を話すと、神々は酒吞童子退治のため、帽子兜と毒酒を与える。



酒吞童子は寝所に下がり、頼光たちは配下の鬼たちにも毒酒を飲ませる。庭先には泥酔する鬼たちがいる。



酔いつぶれた酒吞童子は本来の鬼の姿に戻っていた。周囲にはさらわれた女たちがいる。

酒吞童子絵巻（孝信本） 伝狩野孝信筆 3巻 紙本着色 江戸時代・17世紀 A-1372
Illustrated Tale of the Demon Shuten Dōji | Attributed to Kanō Takanobu



酒吞童子絵巻（探幽本） 巻下（模本）
Volume 3 of the Illustrated Tale of the Demon Shuten Dōji (Copy)
Original: By Kanō Tan'yū
1巻 紙本着色 江戸時代・享保15年（1730）
原本：狩野探幽筆 江戸時代・17世紀 A-3029-3



コラム 2

酒吞童子を斬った伝説の名刀

酒吞童子の首を斬り落とす際、頼光は三度太刀を振り下ろし、ようやく成功したといわれています。このとき用いたと伝わるのが「童子切安綱」と呼ばれる太刀で、江戸時代には美作国（岡山県北東部）の津山松平家に随一の家宝として大切にされました。この太刀が実際に用いられたかはさておき、絵巻に描かれた刀剣よりもぐつと深く反っており、太刀が作られた平安時代の特徴を示しています。



（参考）
国宝 太刀 銘安綱（名物 童子切安綱）
Blade for a Long Sword (Tachi), Named "Meibutsu Dōjigiri Yasutsuna" | By Yasutsuna
1口 平安時代・10～12世紀 F-19931

コラム 4

四季の庭

酒吞童子の館はまさに異界で、東西南北に春夏秋冬が配された四季の庭がありました。孝信本では巻中、館に招き入れられた頼光たちの部屋の外に、梅、藤、菊など、四季の花の咲く庭が描かれています。孝信本のように四季をまとめて描くもの、四季の花木をいくつかの場面に振り分けて描くものなど、各作品で表わし方はさまざまですが、必ず描かれているモチーフです。この血なまぐさい作品の中で、絵師の技量の見せ所の一つが四季の庭だったといえます。



酒吞童子絵巻（孝信本） 巻中
Volume 2 of the Illustrated Tale of the Demon Shuten Dōji

鬼退治のヒーローたち

酒呑童子絵が流行する以前にも、この物語の登場人物である源頼光や四天王の活躍を描く作品が生まれています。「土蜘蛛草紙」は、源頼光と渡辺綱が、土蜘蛛という化物を退治する物語です。「綱絵巻」は「酒呑童子絵」のその後を描く物語。酒呑童子を退治したのち、羅生門に逃げ延びた配下の鬼、そして牛鬼という鬼を、頼光の命で綱が退治する話です。鬼退治の世界では、彼らはヒーローでした。



土蜘蛛の首をはね、腹を割く頼光と綱。そこから多くの髑髏や小蜘蛛が出てきた。

重要文化財 土蜘蛛草紙

The Illustrated Tale of the Earth Spider (Tsuchigumo)

1巻 紙本着色 鎌倉時代・14世紀 A-18



酒呑童子討伐から逃れた鬼を、渡辺綱が羅生門で退治する。

綱絵巻

The Illustrated Tale of the Samurai Watanabe no Tsuna

1巻 紙本着色 室町時代・16世紀 A-942

広まるものがたり

酒呑童子の物語は、江戸時代には古浄瑠璃や御伽草子を通して普及し、浮世絵の題材としても広く好まれました。勇ましい武者が活躍するストーリーは、「武者絵」の格好の画題となり、人びとの願いや憧れを映し出しながら、初期浮世絵から幕末・明治に至るまで描き継がれていきます。とりわけ、酒呑童子が討たれるシーンには、物語を象徴する場面として定着していきます。



アクロバティックな構図で、酒呑童子を一齐に斬りつける場面を描いた武者絵。

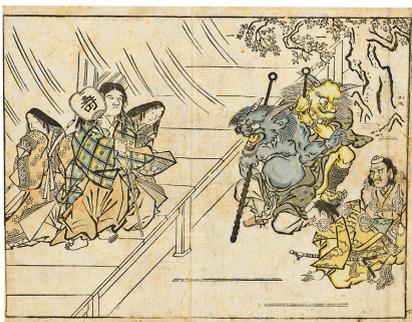
源 頼光の酒呑童子退治

Minamoto no Raikō Kills the Demon Shuten Dōji

By Kitao Masayoshi

1枚 大判錦絵 江戸時代・18世紀

A-10569-2162 前期展示



第六図



第十四図（綱絵巻第一図）

酒呑童子退治を描いた17世紀後半の浮世絵の組物。「綱絵巻」の鬼退治の場面も含まれている。

酒呑童子図

The Tale of Shuten Dōji | By Hishikawa Moronobu

18枚 横大判墨摺絵筆彩 江戸時代・17世紀 A-11682-9、1

第六図：後期展示 第十四図：前期展示

※全18枚のうち2枚を掲載

愛され続けるものがたり

江戸時代後期の浮世絵には、酒吞童子の物語がさまざまに形を変えて登場し、絵師たちのイマジネーションが加わりながら多彩な展開をみせます。頼光と四天王を当世風俗の美人に置き換えた見立絵（やつし絵）や、酒吞童子の子・鬼童丸どうまるが登場するスピントフ作品、坂田金時の幼少期にあたる金太郎の怪童伝説を題材にした浮世絵など、元のストーリーを知っているからこそ楽しめる作品が数多く生まれました。それほどまでに、酒吞童子の物語が人びとに愛されてきたといえるでしょう。



酒吞童子退治へ向かう頼光と四天王を、江戸の女性たちに置き換えた美人画。

見立大江山 喜多川歌麿筆

Allusion to the Heroes of *The Tale of Shuten Dōji* | By Kitagawa Utamaro

1組 大判錦絵3枚続 江戸時代・18世紀 A-10569-1919~1921 後期展示



酒吞童子の子とされる妖賊・鬼童丸が、父の仇である頼光を狙う場面。

頼光を襲う鬼童丸とこれを支える四天王 歌川国芳筆

The Bandit Kidōmaru Ambushes Raikō and his Four Legendary Retainers | By Utagawa Kuniyoshi

1組 大判錦絵3枚続 江戸時代・19世紀 A-10569-5337~5339 前期展示



金太郎と呼ばれた幼い頃の自分を懐かしく思い出す夢を見る坂田金時。

幼時を夢見る坂田金時 鳥居清長筆

Sakata no Kintoki Dreaming about His Childhood
By Torii Kiyonaga

1枚 大判錦絵 江戸時代・18世紀
A-10569-1195 後期展示



頼光の館に現れた土蜘蛛と妖怪たち。当時、天保の改革の風刺画であると噂された。

源頼光公館土蜘蛛妖怪図 歌川国芳筆

The Earth Spider (Tsuchigumo) Appearing in Minamoto no Raikō's Residence | By Utagawa Kuniyoshi

1組 大判錦絵3枚続 江戸時代・天保14年(1843) P-3777 後期展示

表紙作品：酒吞童子絵巻（孝信本） 巻下（部分）、酒吞童子図扇面（36面のうち）



特集 平安武士の鬼退治——酒吞童子のものがたり——
令和7年(2025)9月29日発行

執筆・編集：土屋貴裕、村瀬可奈 撮影：藤瀬雄輔、吉岡由哲ほか 翻訳：サミュエル・タン（以上、東京国立博物館）
デザイン・制作・印刷：アイワード 発行：東京国立博物館 ©2025 東京国立博物館 Tokyo National Museum